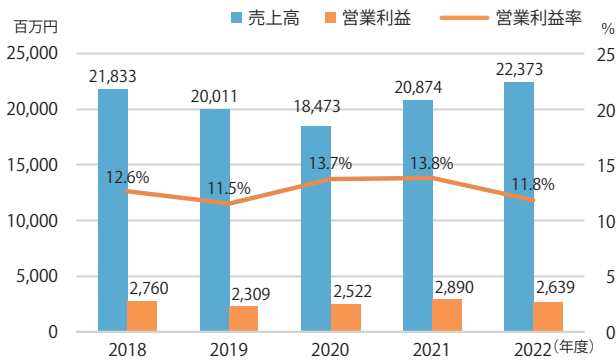


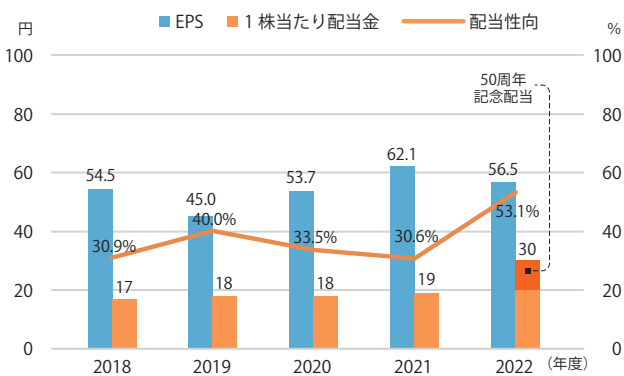
財務ハイライト

◆ 売上高・営業利益・営業利益率



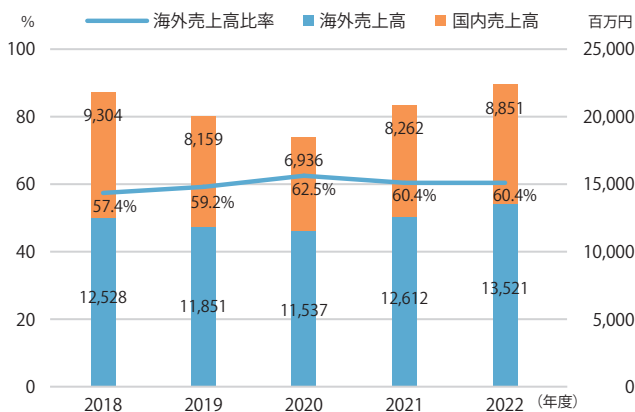
2022年度の売上高は、過去最高の22,373百万円(前期比7.2%増)となりました。中国ロックダウンの影響はありましたが、日本・北米市場での販売増に加え、欧州でのメディカル関連向け大型特注機が寄与しました。営業利益は、人件費の増加、原材料価格・海上輸送費の高騰により、2,639百万円(前期比8.7%減)となりました。

◆ EPS・配当金・配当性向



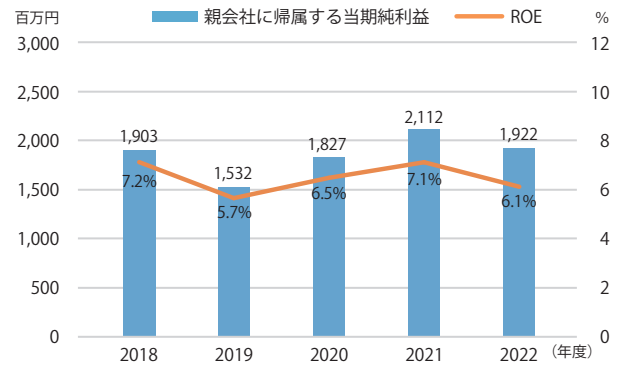
安定的・継続的な株主還元を実現するため、連結配当性向は30%以上を目標としています。連結業績の向上を図り、普通配当の水準を引き上げていきたいと考えています。2022年度は、1株につき普通配当20円、設立50周年記念配当10円の合計30円の配当を実施しました。

◆ 海外売上高比率



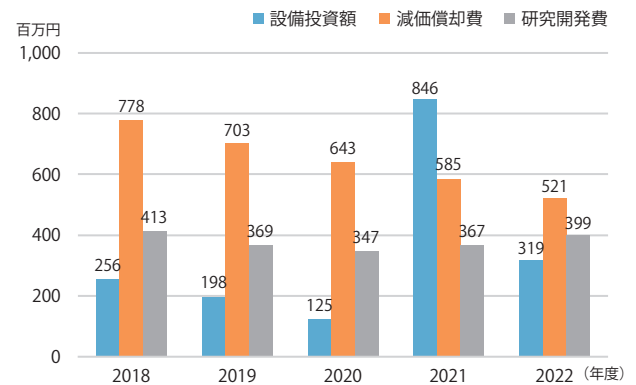
海外売上高比率は、近年は60%前後で推移しています。現在、YUSHINグループのグローバルネットワークは全57拠点あり、世界中の国や地域で、販売・アフターサービスを展開しています。

◆ 親会社に帰属する当期純利益・ROE



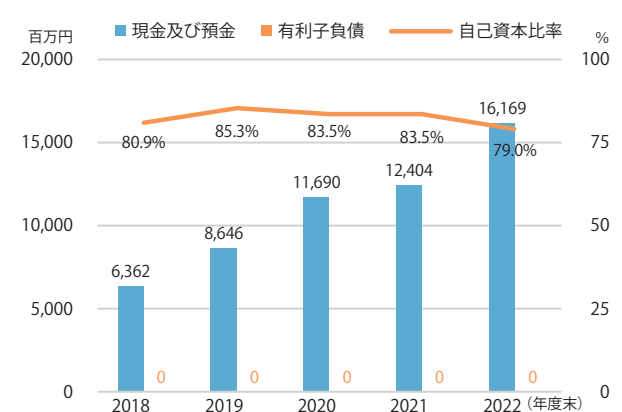
2022年度の親会社に帰属する当期純利益は、円安に伴う為替差益の発生がありましたが、人件費の増加や原材料価格・海上輸送費高騰のインパクトが大きく、前期比9.0%の減少となりました。ROEは6.1%となり、前期より1.0pt減少しました。

◆ 設備投資額・減価償却費・研究開発費



近年の設備投資は、2022年度のショールーム開設、2021年度の本社近接土地購入がありました。減価償却費は、2016年の新本社工場建設以降は年々減少しています。研究開発には、従来よりどのような経済状況下においても一定の投資を優先し、成長戦略のための投資を継続しています。

◆ 現金及び預金・有利子負債・自己資本比率



ここ数年は大きな支出がなく、現預金残高は増加しています。2022年度は、特注機ビジネスによる前受金があったことも、増加要因となりました。引き続き、将来の需要増、適切なタイミングで機動的な投資が行えるよう備えてまいります。